

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成28年6月20日
タイトル	今年もみんなで給食米を植えたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成28年6月1日（水）福山市立東村小学校全児童44名と福山市立東村保育所児童14名が、学校給食食材納入グループ「若草会」の学校農園約20aのほ場で、給食で食べるお米の田植えをしました。

晴天のなか、保育所と小学校から子ども達が歩いてほ場までやってきました。



まず、学校給食食材納入グループ「若草会」の杉原直道さんすぎはらなおみちより挨拶があり「今年で5年目となり、子ども達も毎年して田植えが上達していることでしょう。」とお話されました。

福山市の保育課の梶田先生が挨拶され「今年、福山市は市制施行100周年です。100年前は給食はありませんでした。今、東村の子ども達は、みんなで田植えをしたお米や若草会の方が作って下さったおいしい野菜を給食でいただくことができます。地域の方に感謝しましょう。」と挨拶されました。

今年から「恋の予感」を植えることになり、水土里ネット福山の組合員かいのあきのりの廻野明倫さんから気候が変わって夏がとても暑くなり「ヒノヒカリ」では高温障害になるため、暑さに強い「恋の予感」を植えることにしたことが説明されました。

子どもを代表して挨拶があり「みんなで楽しみにしていた田植えの日がやってきました。」と言っていたのが印象に残りました。

いよいよ田植えです。小学生全員と保育所に年長、年中が横一列に並び、田んぼへ入ります。高学年の子ども達は慣れたもので、黙々と一番奥まで歩いていきます。低学年の子ども達は「気持ち悪い」と歓声をあげながら一步一步進んでいきます。「気持ち悪い」と言いながらも笑顔で、土の感触を楽しんでいるようでした。

杉原さんから「苗を3本ずつ持って植えるんよ。植え方はもう言いません。みんながそれぞれ考えて植えてみなさい。」と言われました。



高学年の子ども達は真剣な表情で植えていました。手さばきも足さばきも慣れていて大人顔負けです。低学年の子ども達は、去年に田植えを思い出しながら植え、若草会の方に教えてもらおうとすぐ思いだして上手に植えていました。保育所の年長・年中の子ども達は初めての田植えに戸惑っていましたが、すぐ上達して植えることができました。



あっという間に植えて苗がなくなってしまう「苗をお願いします。」と子ども達が声をかけると、校長先生が苗の束を豪快に投げてやり、子ども達が次々にキャッチして歓声があがっていました。田んぼの中には、オタマジャクシやタニシがいて、稲を植えていても気になってしょうがないようで、タニシを両手いっぱい掴まえて見せてくれる子もいました。田んぼで自然観察ができました。

田んぼの4分の1を手で植えて子ども達の田植えが終わると、廻野さんが田植え機で颯爽と田植えをして見せてくださいました。子どもも試乗させてもらい、田植え機の上からみんなに手を振っていました。

田んぼから上がった子ども達は、泥だらけの手足を農業用水路の水で洗い流しました。用水路は子どもが一人入れるほどの幅ですが、土嚢で堰き止めていたのに水圧で流され水力を実感しました。

最後に校長先生より挨拶があり、若草会や地域に方に感謝し、毎日給食をいただいていること、これから稲刈りまでお世話をしていただき感謝することと、子ども達と共に稲の生長を見守っていくことなどを話され、田植え体験は終了しました。

その後、子ども達に水路等への転落防止の呼びかけを行いました。みんなが手足を洗った川が農業用水路であることや水圧で簡単に土嚢が流され、思った以上に危険なことなどを話すと真剣な表情で聞いてくれました。

家庭でも、ため池や水路に対する防災意識を高めてもらうため、福山市上下水道局から提供の災害備蓄用飲料水「ばらのまち福山の水」と水路等への転落防止を呼びかけたチラシを配布しました。



子ども達を見送ると、若草会の皆さんが用意してくださったおむすびと柏餅が振舞われました。おむすびは豆ごはんで3升炊いたそうです。皆さんがとても生き生きとしておられました。

用意されたおむすびには、子ども達からメッセージが添えてありました。地域の方や若草会の皆さんに見守られて、子ども達がすくすく育っていることを実感しました。メッセージを読んで温かい気持ちになり、みなさんと一緒におむすびをいただきました。

— 子ども達からのメッセージ —

本日おこしの皆様へ

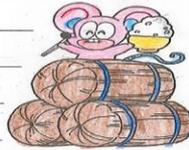
東村小学校の給食は、お米がとてもおいしいです。それは、若草会の方々のお力をかりて東村小学校の児童と地域の方々で育てたからです。

田植え体験で植えた米を給食で食べられる小学校は全国でも数少ないそうです。そんな中、今年も田植え体験ができるということは、とてもうれしいことです。

これからも、東村のおいしいお米を食べてすくすくと大きくなりたいです。



東村小学校
児童会より



田植えを終えた子ども達の上には、めずらしい「逆さの虹」が！



用水路には、大きなカエルが！
子ども達は興味津々です。恐る恐る覗いて見る子やカエルを触ってみる子もいました。カエルは大人しくなすがままなのでした！

ここ東村町は、平成3年から平成5年にかけて水土里ネット福山が、ほ場整備事業を施行した地域です。ほ場整備を契機に地元農家を中心とした若草会と小学校・保育所が連携した給食米の取り組みは、地産地消の実践例として市内の基盤整備実施地区のモデルケースとなっています。

今年も水土里ネット福山は、東村町の取り組みに協力し一年を通じて農業体験取材し全国へ情報発信します。